

2008年4月25日

各 位

会社名 **日神不動産株式会社**
 代表者の役職名 代表取締役会長兼社長 神 山 和 郎
 (コード番号：8881 東証第一部)
 問い合わせ先 取締役兼執行役員専務 藤岡 重三郎
 電話番号 03 - 5360 - 2011

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、昨年9月26日に修正した、平成20年3月期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成20年3月期 連結業績予想数値の修正(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位：百万円、百万円未満四捨五入)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	53,700	6,100	5,900	3,400
今回修正予想 (B)	40,500	3,000	2,800	1,350
増 減 額 (B - A)	13,200	3,100	3,100	2,050
増 減 率 (%)	24.6	50.8	52.5	60.3
前 期 実 績 (平成19年3月期)	57,575	6,689	6,658	3,776

2. 平成20年3月期 個別業績予想数値の修正(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位：百万円、百万円未満四捨五入)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	47,000	5,600	5,400	3,200
今回修正予想 (B)	33,500	2,500	2,300	760
増 減 額 (B - A)	13,500	3,100	3,100	2,440
増 減 率 (%)	28.7	55.4	57.4	76.3
前 期 実 績 (平成19年3月期)	51,062	6,232	6,210	3,655

3. 修正の理由

当不動産業界、とりわけマンション販売業界は、建築費や用地取得費の上昇に伴う販売価格の高騰が個人所得の伸びを上回った事などに加え、特に期の後半からは、米国のサブプライム問題に端を発した世界的な金融不安に伴う景気低迷により、消費者のマンションの買い控えが鮮明になったことや、活発に活動していた不動産ファンドの物件購買姿勢が止まったこと、更には株価の下落に伴いマンション購入予定者の心理が悪化したことや、金利の先高感も遠のいたことなど、さまざまな条件が重なり、全体として大幅な落ち込みを示しました。

このような状況のもと、当社では、期初において、郊外での分譲が中心となる「日神パレステージ」シリーズの販売は低調に推移する可能性があるかと判断し、都心での分譲が中心となる、単身者、デュオ向けの「日神デュオステージ」シリーズの供給を強化する計画を立てました。

実際の販売では、期の後半から想定以上にマンション分譲の落ち込みが大きく、特にファミリー向けの「日神パレステージ」シリーズにおいて、大幅に分譲時間がかかる結果となりました。単身者、デュオ向けの「日神デュオステージ」シリーズは、「日神パレステージ」シリーズの販売に比べると影響は軽微でした。

しかしながら、販売全体では、当社の物件供給が、例年同様に期の後半に集中していたことから、マンション販売の停滞の影響を受けることとなりました。

○ 個別業績

売上高につきましては、上記の一般的な要因以外にも、期末時点一括売却を予定していた物件において、購入側企業が資金調達できずに計画が進捗しないケースがありました。その内1棟(86戸、売上高20億円)は契約後にキャンセルとなりました。

これらの要因が重なった結果、売上高を335億円、販売戸数は1,171戸に修正させていただきます。

利益面では、売上高の減少に伴う利益率の悪化を加味して修正しております。当期純利益に關しましては、前期まで計上していた繰延税金資産の取崩しを約9億円見込んだため、7.6億円にとどまる見通しとなりました。

○ 連結業績

売上高及び利益とも、主に個別業績の修正に伴う減少となっております。

当期純利益につきましては、繰延税金資産の取崩しを約3億円見込んだことにより、13.5億円の見通しとなりました。

4. 配当予想について

当社は、株主の皆様に対する利益還元を会社運営における重要課題と認識し、長期的な安定配当を行うことを基本方針としております。期末の利益配当金につきましては、当初の方針通り1株あたり15円を予定しております。

(注)上記の業績予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により、上記予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

以 上